

この教材見本は、実際の1カ月分の教材よりも回数・ページ数が少ないダイジェスト版です。

※実際の教材の1カ月あたりの学習量は、1回30分×8回です。

この教材見本は1カ月分の一部を抜粋して掲載しています。

下記の黒字が今回の掲載回です。

※テキストスタイル、進学クラスの教材見本です。

小説：心情把握

- 1 要点学習 要点
- 2 応用学習 読解演習 1
- 3 応用学習 記述トレーニング
- 4 応用学習 読解演習 2
- 5 応用学習 知識トレーニング
- 6 応用学習 速読トレーニング
- 7 添削問題 添削問題 1
- 8 添削問題 添削問題 2

1

要点学習 小説…心情把握

要点

30分

要点

小説…心情把握 要点

今回の単元を学習すると…

登場人物の置かれた状況とそのときの心情とがどうかかわるのかを確
認し、**状況をふまえた心情把握ができる**ようになります。

小説の心情把握のポイント

- (1) 小説の三要素（登場人物・背景・事件）をとらえる
- (2) 置かれた状況での登場人物の心情をつかむ

〔1〕小説の三要素をとらえる

小説の読解の基本は、小説の三要素、すなわち、**登場人物・背景・事
件（エピソード）**の三つの点をおさえることにあります。

用語をチェック！

小説の三要素

登場人物…だれが

背景 …いつ（時代、季節、時刻など）、どこで（場所）、どんな状況で

事件 …何が起きたか（できごと）、どうしたか（登場人物の言動）

この三要素を、文脈に即して読み取り、あらすじをつかむことが、小説の読解の第一歩となります。

●登場人物

登場人物の中でも主人公は小説の中心となる人物です。この人物が他のさまざまな人たちとからみあい、いろいろな事件にまきこまれていくことよってストーリーが展開していきます。最初の通読で、主人公と、主人公についての基本的なデータ（性別や年齢など）をとらえるようにしましょう。他の登場人物については、主人公を中心として関係をとらえていく（家族か、友人かなど）とよいでしょう。

●背景

背景は、あらすじをとらえるうえでもっとも基本的なデータとなります。時代や場所がどのように設定されているかによって、登場人物の位置づけや事件の意味などが大きく左右されるからです。〈背景〉にかかわる要素は、問題文の前書きの部分に書かれていることもありますので、前書きも本文と同様にきちんと読むようにしましょう。

●事件

小説の中では、必ずなんらかの**事件**が起こります。大きな事件ばかり

とはかぎりません。日常生活の中のちょっとした変化なども小説ではよく取り上げられますので、大事な点を見落とさないよう注意して読みましょう。一つの事件が起こったら、次にそれがどのように展開していくのかを追っていくことが大切です。「この先はどうなっていくのだろうか？」と、考えながら読むようにしましょう。事件とその展開を追っていくことが、すなわち小説の〈筋＝ストーリー〉をつかむということです。

ポイント

- ・登場人物・背景・事件を整理する
- ・事件とその展開を追ってストーリーをつかむ

〔2〕置かれた状況での登場人物の心情をつかむ

状況が把握できたら、次に、その状況での登場人物の心理・心情を把握することが必要になります。心理・心情を把握するためには、次の点に注目しましょう。

●気持ちを直接表す表現

「喜んだ」「悲しんだ」などの、**気持ちを直接表す表現**に注目します。気持ちを表す言葉が出てきたら、印をつける習慣をつけておきましょう。

●しぐさ・表情・態度の描写

登場人物のしぐさ・表情・態度についての描写には、その人物の内面の**状態が反映されている**と考えて、丁寧に読み取る必要があります。

●会話文

会話文も同様に、**人物の感情、また考え方などが表れている部分**として、注意深く読み取りましょう。

●自然描写

人物の目をとおして描かれた自然描写に、その人物の心理状態が投影されていることがあります。

例文で確認！

庭のけやきの木も、微妙に揺れ動いているように思えた
↓人物の迷いや、定まらない気持ち

とくに一人称で書かれた小説（＝主人公が「わたし」であるもの）では、このような描き方がよくなされますので、覚えておきましょう。

ポイント

- ・喜怒哀楽等の感情や心理が直接的に表されている語句に注目する
- ・人物の動き・態度・表情の描写に隠された心情に注目する
- ・会話文は心理・感情が外に表れたものである、という意識をもって注意深く読む
- ・人物の目をとおしての自然描写に、その人物の心理・感情が重なって表現されていないかを考える

次のページで、「例題」に取り組みましょう。

小説：心情把握 例題

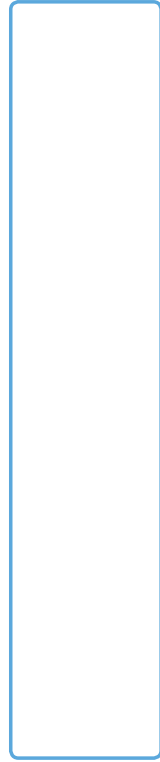
例題

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

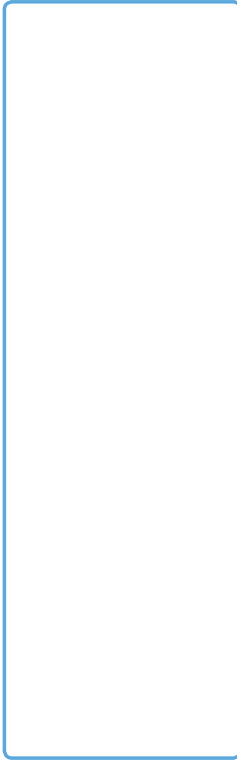
(著作権の都合により、問題文を掲載していません)

(著作権の都合により、問題文を掲載していません)

問一 傍線(1)とありますが、このときの昇平の気持ちを説明しなさい。



問二 傍線(2)とありますが、昇平はなぜ「余計に悔しくなった」のですか。説明しなさい。



解説

まず、小説の三要素を確認します。

登場人物は、昇平と草太ですね。冒頭の説明にあるように、二人は「なじみの中学一年生」です。問題文は「昇平」の視点で書かれていますから、主人公は「昇平」です。

背景については、「毎日坂を登って迎えに来る草太」「今朝は嫌味の一つも……」という部分が手がかりになります。「毎日」「迎えに来る」「今朝は」などの表現から、朝、草太が昇平を迎えに来る場面で、しかもそれは「毎日」のことだとわかりますから、登校中の幼なじみどうしの会話だろうと判断できますね。

事件については、「今度ノブ君の伯父さんの自転車屋に行って、トークリップって部品もつけてもらうんだ」という草太の発言がきっかけになっていることがわかります。この言葉を聞いて会話をするうちに、昇平は、「知らず知らず不機嫌になっていた。草太の自転車がグレードアップするのも、草太の知識が増えるのも、草太と仲男がどんどん仲良くなっていくのも、どれもこれも面白くなかった」と、気持ちに変化していきます。最終的には「自分が見下され、相手にもされていけないような気がした」というくらいにこじれてしまうのですね。

このことを頭に入れて、設問を考えましょう。

問一 冒頭の草太との会話のあと、昇平は、「知らず知らず不機嫌になっていた。草太の自転車がグレードアップするのも……草太と仲男がどんどん仲良くなっているのも、どれもこれも面白くなかった」「**なんだか自分だけ取り残されているようだ**と思うと、草太に問い掛ける口調もぶっきらぼうなものになってしまった」「昇平の中には草太を応

援したい気持ちもあったが、今朝は**嫌味の一つも言ってやりたい気分**であった」という心情になり、傍線部の言葉を投げかけていますね。

解答は、昇平の気持ちを具体的に表す「**なんだか自分だけ取り残されているようだ**」「面白くなかった」という心情を軸に、「嫌味の一つも言ってやりたい気分」にこめられた、相手をやりこめてやりたいという心情を加えてまとめます。

問二 問一の発言のあと、昇平の気持ちがどんなふうに変化していったのかを、会話文から確認します。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

草太においてきぼりにされたようで面白くなかったところに、嫌味のつもりで坂の話を持ち出しても、草太が平然としているので、昇平

はますます意固地になっています。そして、「俺の方が先に登つちまうぞ」と発言したところ、草太が「自然と驚いた」ことで、「自分が見下され、相手にもされていないような」気持ちになって、さらに悔しさが増したのですね。

解答は、自分が坂を登ってしまうぞ、という言葉に草太が「自然と驚いた」という状況と、その草太の驚きぶりを「自分が見下され、相手にもされていない」ということだと受け止めた昇平の気持ちを軸にまとめます。

解答

問一 (例) 草太たちから自分だけ取り残されたようで面白くなく、やりこめてやりたい気持ち。

問二 (例) 自分が坂を登るとい言葉に草太が驚きを示したので、自分が草太から一段低く見られているような気がしたから。

確認問題

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

問

——Aと——Bの二つの「大丈夫だ」について、このように洋が言ったときの様子や気持ちを、それぞれ次のA、Bのようにまとめる時、空欄①・②に当てはまる適切な言葉を選びなさい。

A 転倒した痛みと、うまくMTBを操ることができない悔しさと惨めさで涙が出そうになり、起き上がる気力もなく寝転がっていたが、心配して声をかけたジャンに対して (①)。

ア 怒っている イ 面白がっている ウ 強がっている

B ジャンの後についてMTBで山を下りることができた (②) から、もはや疲れも悔しさも惨めさも感じず、とても愉快的気持ちになって、寝転がったまま笑い出した。

ア 満足感 イ 失望感 ウ 優越感

解説

発言だけに注目すれば、AもBも同じ「大丈夫だ」という言葉です。しかし周りの言動や本人の置かれた立場によって、そこに込められた気持ちは違ってきます。

Aの「大丈夫だ」は、洋が転倒して「痛み」を感じ、そして「悔しさと惨めさで涙が出そう」になっている場面で発せられています。大丈夫という状況では決めているのですが、ジャンがそこにやって来たので、しいて大丈夫なふりをしているのですね。Aの直後に「笑顔を作った」とあることから、ウ「強がっている」洋の心情が読み取れます。

これに対してBは、「意識を集中して」て「なんとか下まで下りられ」て、ジャンに「よくやった」と言われている場面で、無事に目的を達成できた状況です。Bの後に「疲れも悔しさも惨めさも感じなかった」「とても愉快な気持ち」と直接説明がありますので、それまでの苦労や惨めさが吹き飛んで、ア「満足感」でいっぱいとなっている心情が読み取れます。ウ「優越感」は、ほかの人と比べて自分のほうがまさっていると感じて満足する気持ちを表します。この場面は、洋が自分とだれかを比べているようなところではありませんから、あてはまりません。

解答

- ①ウ
②ア

要点で学習した内容をふまえて問題を解いていきましょう。
今回は設問の最後に「クリティカル・シンキング」の課題もあります。お楽しみに！

読解演習

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

問五 傍線(4)の表す内容として最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。

- ア 父からもらった大切な絵具の色を否定され、心が傷つけられたこと。
- イ 普段親身になって指導してくれていた人からの批判に、不信感をいだいたこと。
- ウ 自分の作品が父の影響のもとを出ないことを指摘され、衝撃を受けたこと。
- エ 娘を自分の影響下に置いておこうとする父への反発をおぼえたこと。

問六 傍線(5)とありますが、千紗子は何を捨てようとしたのですか。文中から十三字で探し、抜き出して書きなさい。

問七 傍線(6)とありますが、この時の千紗子の気持ちを説明したものとして最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。

- ア 自分なりの絵を描いてきたつもりが、父親の二番煎じにすぎなかったことに気づき、絵の道をあきらめようかと迷っている。
- イ 父の歩んできた道をうまく利用して自分も成長していきたいが、父の絵を模倣したといえるほどにもうまくなれず困り果てている。
- ウ 今まで浴びて来た称賛の類がすべて父の功績によるものであり、実は自分は無力だったことに気が付いて落ち込んでいる。
- エ 父の作った色を捨てたいが、その色なしで自分の絵が描けると言い切れるほどの自信もなく、どうしたらよいかわからず悩んでいる。

正解のない問 クリティカル・シンキングにトライ!

※クリティカル・シンキング (critical thinking) とは？

与えられた知識や情報をただ吸収するのではなく、さまざまな観点から検討し、物事を多角的に考察することを行います。正解が一つに決まらない問に取り組み、「考える力」を鍛えましょう。

「読解演習」の文章について、次の《課題》に取り組みましょう。

《課題》千紗子の独白（58～60行目）をふまえ、自分を成長させるために、自分が最も得意とすることを封印するということについて、あなたの体験を二文程度で簡潔にまとめなさい。

必見

今回のポイントや先輩たちの回答を「N云 My Page」の「みんなの答案」に掲載しています。参考にしてください。

解答解説

解答

問一 (a) おさ (b) ねば (c) あんのん

問二 父が調合した鉄絵具に頼っているために、千紗子の絵には千紗子自身の個性がにじみ出てこないから。(46字)

問三 イ

問四 父の影響を超えて独創的な作品を作ってきたつもりが、実際は父の絵具に頼っていると見抜かれたということ。(50字)

問五 ウ

問六 親の手製の鉄絵具で出した色

問七 エ

解説

問一 (a)「抑」は音読みで「ヨク」、訓読みで「おさ・える」と読む漢字です。

また、字形のよく似た漢字に「迎」「仰」があるので注意が必要です。

「迎」は「むか・える」、「仰」は「あお・ぐ」と読みます。

(b)「粘」は音読みで「ネン」、訓読みで「ねば・る」と読みます。

「粘土」「粘着(「ねばりつくこと」)」「粘性(「ねばる性質」)など、「粘」の意味がわかるだけで、知っている熟語の幅が広がるのがわかるでしょう。ちなみにこの字が指す「ねばり」とは、もともとは、ねった粉をつまんだときに感じるねばりを表していたようです。

(c)「穏」は音読みで「オン」と読み、〈落ち着いているようす〉という意味です。「安」も〈心が落ち着いている・やすらかである〉という意味があります。「安穩」は〈心が落ち着いているようす〉とい

う意味で、読みは「あんのん」と読みます。前の子音がnで終わり、次の音が母音で始まる言葉で読みが変化する例としては、ほかに「応(はんのう)」「因縁(いんねん)」などがあります。

問二 傍線部の直前や、31～32行目の記述から、千紗子の作品について作家が「駄目だね」と言っていることは判断がつきます。

では千紗子の作品はどうして「駄目」なのでしょうか。作家は傍線部のあとで妻に説明しています。作家と妻の会話を追いながら、その理由を探っていきましょう。登場人物の言葉のやりとりをわかりやすくするために、細かな部分をABCに置き換えてみましょう。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

作家は妻の言葉を受けながら〈千紗子の作品は(凄い絵だけれど)Aだから駄目↓Bがいけない↓C〉と、自分の考えを説明していますね。つまり、A↪Cの部分に作家が千紗子の作品を「駄目」だと言った理由が書かれています。

それでは、A↪Cの内容を確認してみましょう。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

「小布施康介」が千紗子の父親であることは、千紗子の名字が「小布施」であること、「二世」という嫌なおまけつきで世間に評価されていることなどから読み取れます。

つまり作家は、千紗子が〈父親のレシピ(父の調べした鉄絵具)に頼っているために、千紗子の絵には彼女自身がにじみ出ていかない(千紗子らしさがなく)〉から「駄目」だと考えているのです。作家のこの考えは、Cの後の「人のくれた色に安穩としているようじゃ、まだ、父親の懐の雛鳥だな」という言葉からも読み取れますね。

○つけのポイント

① 「父が調べした鉄絵具に頼っている」ということが書けているか。

② 父が調べした鉄絵具に頼っているために、千紗子の絵には千紗子自身の個性がにじみ出てこないから。

③ 父が調べした鉄絵具に頼っているために、千紗子の個性がにじみ出ていない」ということが書けているか。

③ 文末の形は〈理由を表す形〉+「。』とする

【こんな解答は△】

△ 父の調べした定評ある鉄絵具に頼って作品を制作しているから。(29字)

* ①の要素はおさえられています。作家が千紗子の作品を「駄目だね」と言う理由が問われていますから、①の事実が作品にどのように影響するかという点までおさえましょう。

問三 まず、傍線部の「耳を疑う」という言い回しについて確認しましょう。これは、〈思いがけないことを聞いて、聞き間違いはないかと信じがたく思う〉といった場合に用いる表現です。傍線部の直前で「駄目？」と千紗子の心中でもらした疑問が示されているように、傍

線部は自身の作品への「駄目だね」という否定的な評価を思いがけないものにとらえる千紗子の気持ちを表したものです。

なぜ千紗子が否定的な評価をされることに驚くのかという理由は、二つの側面からとらえることができます。

まず一つめの鍵となるのは、傍線部の直後の記述です。ここから千紗子はいつも作家から好意的に接してもらっているために、厳しい評価を予想していなかったと考えることができます。

二つめは、千紗子自身の自分の作品への評価から読み解くことができます。

作家の評価

「駄目だね」↑「耳を疑った」(驚き)

千紗子の気持ち

よい評価を予想していた

作品をけなされて驚くということは、千紗子は自分の作品に対してよい評価が与えられると予想していたと考えられますね。そこで、千紗子が自分の作品に自信をもっていることを示す記述を問題文から探してみます。実際にこれまで周囲からも高く評価されていたことがうかがえます。また、「二世」であつても父親を超える作品を生み出しているという千紗子の自負がうかがえる記述があります。

これらの記述に着目しながら、選択肢を検討していきます。イは「父のしてきたことを軽々と超えてゆくつもり」という千紗子の気構えとはまったく逆の方向性なので、本文に沿わない内容です。この問は「適切でないもの」を選ぶ設問ですので、イが正解です。

選択肢をエック!

ア 千紗子は、周囲から「絵唐津の、天才肌の若手」として評価されているから。

イ × 父から受けた教えを忠実に守って作り上げた作品を批判されたから。

ウ 千紗子は、父の作品を超える独創的な作品を生み出していると自負していたから。

エ 父だん、親身になって指導してくれる人に批判されると思わなかったから。

問四 傍線部は作家と妻の会話の直後にあり、この会話の内容を受けたものだと考えられます。作家は千紗子の作品を「駄目」だと考えていますが、その理由は会話の後半の37～44行目にあります。

傍線部の後にあるように、父親の手製の鉄絵具の調合は、「大きな展覧会で賞を獲った」ことの「褒美」として父からももらったものでした。しかし千紗子はそのことが自分の作品に影響を与えているとは思っておらず、「薦のように」「父のしてきたことを軽々と超えて」「独創的な形も絵柄も作り上げてきたつもり」でいました。それが、作家と妻の会話によって初めて、自分が「甘やかされ、型に取り込まれて」いたということに気づかされたのです。

傍線部の直前では、作家に「駄目だね」と言われて「痛いところを突かれ」と感じている千紗子の心情が描かれています。千紗子としては、「何もかも、父のしてきたことを軽々と超えてゆくつもり」で絵に臨んできました。「蕨のように」という言葉には、たとえ偉大な父親（「一本の幹」）から生まれたとしても、自分自身の個性で自分の作品世界をひろげて活躍していきたいという千紗子の気持が表れています。千紗子はこの思いを胸に「**独創的な形も絵柄も作り上げてきたつもり**」だったのです。

ところが自分を親身に指導してくれている作家は、千紗子の絵を独創的な絵だとは思っていませんでした。問二でも見てきたように、作家は千紗子の作品を「**親の調合した鉄絵具を使っているせい**で、**彼女の絵に彼女自身がにじみ出ていかない**」、**「父親の手製の鉄絵具で出した色は、千紗子の個性を本当に表現するための色ではなく借り物だ」と評価して**いました。

自分だけの独創的な形と絵柄を作り上げていきたいと思い、またそのような作品を作り上げてきた自信もあつた千紗子にとっては、作家の言葉はとても衝撃的だったのですね。

「**独創的な作品**」を作りたいと強く願っている千紗子は、自分らしさを出すことを妨げている「**父親のレシピを捨てよう**」、すなわち「**親の手製の鉄絵具で出した色**」を捨てよう、と決心したのですね。

問七 傍線部の直前の部分から、千紗子が何について「**ぐずぐず悩**」んでいるのかを読み取ります。「**あの色を使うことができれば、どうなるのだろう**」という部分に注目してください。

自分だけの作品をつくるために、一度は父が調合した色を「捨てよう」と決心した千紗子ですが、「**あの色を使うことができれば**、

どうなるのだろう」と**自信**がぐらついているのですね。

今まで「蕨のように」という野心によって作り上げた、自分の個性を信じて疑わなかった千紗子でも、さすがに自分の作品の土台となる「色」を捨てて一からやり直すというのは、相当な覚悟がいることに違いありません。父の調合した色を「捨てよう」と決めたものの、自分の色を一からつくりだすことに強い自信が持てず、千紗子はいつもの気丈な彼女らしくもなく、ぐずぐず悩んでいるのです。この千紗子の気持ちを表した選択肢は**エ**です。

選択肢を手エック!

- ア** 自分なりの絵を描いてきたつもりが、父親の二番煎じにすぎなかったことに気づき、**絵の道をあきらめようかと迷っている**。
イ 父の歩んできた道をうまく利用して自分も成長していきたいが、**父の絵を模倣したといえるほどにもうまくなれず困り果**てている。
ウ 今まで浴びて来た称賛の類がすべて父の功績によるものであり、**実は自分は無力だったことに気が付いて落ち込んでいる**。
エ 父の作った色を捨てたいが、その色なしで自分の絵が描けると**言い切れるほどの自信もなく、どうしたらよいかわからず悩んでいる**。

× **——**を付けた部分は、いずれもこの文章で筆者が述べていない内容です。

ウ千紗子の浴びて来た称賛が「すべて父の功績によるもの」であったとまでは書かれておらず、不適切です。

Z会が厳選した頻出の漢字や言葉を学習していきましょう。

漢字 ①

次の中学新出漢字について、用例(例)を三回ずつ練習しましょう。

恭	窮	祈	頑	架
訓 音 うやうやしい キョウ	訓 音 きわめる キョウ きわまる	訓 音 いのる キ	音 ガン	訓 音 かける カ かかる
例 恭賀新年	例 窮屈	例 祈る	例 頑丈	例 架ける

陶	粧	彰	控	香
音 トウ	音 シヨウ	音 シヨウ	訓 音 ひかえる コウ	訓 音 か コウ かおり キョウ かある
例 陶器	例 化粧	例 表彰	例 控える	例 香り

解答解説

解答

- | | | | |
|---------|--------|---------|--------|
| (10) 陶器 | (7) 化粧 | (4) 頑丈 | (1) 香り |
| | (8) 恭賀 | (5) 控える | (2) 祈る |
| | (9) 窮屈 | (6) 架ける | (3) 表彰 |

解説

- (1) 「香」の訓読みは、「か」「かお・り」「かお・る」です。鼻で感じる
 においては「香」の字が広く使われますが、雰囲気などを言う場合は「薫」
 の字が使われることもあります。
- (2) 「祈」は「しめすへん」の漢字です。「しめすへん」は神・祭りに関
 係のある漢字に使われます。一画多い「ころもへん」と間違えやすい
 ので、注意しましょう。
- (3) 功労や成果をたたえるときは「表彰」と書きます。「表賞」と書く
 のは誤りですので、注意しましょう。
- (4) 「頑」は、左側の部分の字形に気をつけて書きましょう。「丈」は今
 回のように「ジョウ」と音読みするほか、「長さ・高さ」の意で「た
 け」と訓読みすることもあります。

(5) 「控」の音読みは「コウ」で、「控除」などと使います。

(6) 「かける」には「掛ける」「懸ける」などがありますが、橋や電線な
 どをかけ渡すときは「架ける」を使います。「架」の音読みは「カ」で、
 橋を渡す工事のことを「架橋工事」と言います。

(7) 「粧」には「よそおう・かざる」という意味があります。「化」には、
 「ケ」の他に「カ」の音読み（「化学」など）と、「ば・ける」の訓読
 みがあります。

(8) 「恭」は「うやうや・しい」という訓読みがあるとおり、相手に敬
 意をもつて、礼儀正しく接する様子を表します。「恭賀新年」は新年
 の挨拶あいさつによく使われる言葉で、「新年をうやうやしく祝う」という意
 味です。

(9) 「窮」の音読みは「キユウ」で、「苦しむ・困る・貧しくなる」など
 の意味があり、「困窮」「窮乏」「窮状」などと使います。

(10) 「陶」は「トウ」と読み、今回出題した「陶器」の他に「陶醉」な
 どの語を作ります。

言葉

言葉トレーニング

【今月のテーマ】同じ音・同じ訓の言葉

(1) 次の各文の空欄にあてはまる言葉をあとのア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号を書きなさい（同一記号の反復使用不可）。

a その意見に をとねたのは、彼女だ。

b 同音 語を集める。

c この仕事は社会的な のあるものだ。

ア 異義 イ 威儀 ウ 異議 エ 意義

a

b

c

(2) 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

a 利潤をツイキユウする。

b 責任をツイキユウする。

c 真理をツイキユウする。

a

b

c

(3) 次の文の空欄にあてはまる言葉をあとのア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

税金を のは、国民の義務だ。

ア 収める イ 治める ウ 修める エ 納める

(4) 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

a 平和な社会をノゾむ。

b 海にノゾんで建つ家々。

a

b

(5) A～Cの傍線部と同じ漢字を含むものを、ア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号を書きなさい。

A 不|思|ギ

ア ぼくの特|ギ|はけん玉だ。 イ 国会|ギ|事堂を見学する。
ウ ドイツ語の講|ギ|を受ける。 エ |ギ|念をいなく。

B |コ|ン|絶

ア |コ|ン|難に立ち向かう。 イ 古|コ|ン|東西の名品。
ウ 異物が|コ|ン|入する。 エ |コ|ン|扱をあげて説明する。

C テ|ン|型的

ア オリンピ|ッ|クは平和の祭|テ|ンと言われる。
イ |テ|ン|望台に上って景色を楽しむ。
ウ そんな話は青|テ|ンのへきれぎだ。
エ 街灯が一晚中|テ|ン|滅をくりかえしていた。

A

B

C

(6) 次の空欄にあてはまる最も適切なことばをア～エから選び、記号を書きなさい。

このプロジェクトは、専門家からはとても がないといわれていたが、彼は最後まであきらめずに取り組もうと決めた。

ア 生産 イ 精算 ウ 清算 エ 成算

解答解説

解答

- | | | | | | | |
|-----|---|----|---|----|---|----|
| (1) | a | ウ | b | ア | c | エ |
| (2) | a | 追求 | b | 追及 | c | 追究 |
| (3) | エ | | | | | |
| (4) | a | 望 | b | 臨 | | |
| (5) | A | イ | B | エ | C | ア |
| (6) | エ | | | | | |

解説

(1) この問題はまさに「同音異義語」を問うものです。「義」という漢字が〈意味〉を表すことを踏まえれば、**b・c**は考えやすいでしょう。

(2) 「キユウ」という漢字の意味を考えながら漢字をあてはめていくとよいでしょう。それぞれの「ツイキユウ」の意味は次のとおりです。

- a 追求……追い求める
- b 追及……追い詰めて問いただす
- c 追究……どこまでも考えて、調べて明らかにしようとする・探究する

(3) 「税金を納める」ことを「納税」といいます。同訓異字の問題を解く際は、その漢字を使った熟語に何かがあるかを考えると、ヒントになります。

(4) **b**が単独で出題された場合にも間違えずに書けるようにしましょう。

(5) 書き取り問題であっても、すべて書けるようにしておきたい漢字ばかりです。言葉の意味がわからないものは、辞書で確認しましょう。

Aは「不思議」で、**イ**「国会議事堂」が同じ漢字です。**ア**は「特技」、**ウ**は「講義」、**エ**は「疑念」です。

Bは「根絶」で、**エ**「根拠」が同じ漢字です。**ア**は「困難」、**イ**は「古今東西」、**ウ**は「混入」です。

Cは「典型的」で、**ア**「祭典」が同じ漢字です。**イ**は「展望台」、**ウ**は「青天」、**エ**は「点滅」です。

(6) 「成算」は〈成功の見込み〉という意です。同音異義語の「精算」と「清算」の違いも確認しておきましょう。

漢字 ②

次の中学新出漢字について、用例(例)を三回ずつ練習しましょう。

酬	音 シユウ	例 報酬
祉	音 シ	例 福祉
娯	音 ゴ	例 娯楽
堪	訓 たえる	音 カン
涯	音 ガイ	例 生涯
		例 堪忍袋

廊	音 ロウ	例 廊下
帆	訓 ほ	音 ハン
罰	音 バチ・バツ	例 罰
陳	音 チン	例 陳列
織	音 セン	例 織細

解答解説

解答

- | | | | |
|------|-----|-----|-----|
| (10) | (7) | (4) | (1) |
| 織細 | 報酬 | 陳列 | 罰 |
| | (8) | (5) | (2) |
| | 生涯 | 娯楽 | 堪忍袋 |
| | (9) | (6) | (3) |
| | 廊下 | 福祉 | 帆 |

解説

- (1) 「罰」は「罰当たり」などと言うときは、「バチ」と読みます。「バツ」「バチ」ともに音読みです。
- (2) 「堪忍袋」は、我慢のできる心の広さを袋にたとえた語です。「堪忍袋の緒が切れる」で、〈もうそれ以上我慢ができなくなつて爆発すること〉を表します。「堪」には、「たゝえる」という訓読みもあります。
- (3) 「帆」は、高く張つて風を受ける船具です。音読みは「ハン」で、「帆船」など使います。
- (4) 「陳列」は〈人に見せるために物を並べること〉です。「陳」には〈並べる・述べる〉という意味があり、他に「陳述」などとも使います。
- (5) 「娯」は「ゴ」と読み、〈たのしみ〉という意味の漢字です。

(6) 「福祉」は、「福」も「祉」も「しめすへん」の漢字です。画数に注意して書きましょう。

(7) 「報酬」は〈労働などの対価として与えられる金品のこと〉です。「酬」の右側の字形に気をつけて書きましょう。

(8) 「涯」は〈岸・果て・終わるまでの間〉という意味の漢字です。

(9) 「廊」は同じ読みで形の似ている「郎」「朗」と区別しましょう。「廊」の部首は「まだれ」で、「まだれ」は家や建築物に関連する意味を表します。

(10) 「織」は十七画の漢字です。きちんと書けているか確かめましょう。

M · E · M · O

※ここからは『Z Study 解答用紙編』の国語「小説…心情把握」1枚目にご記入ください。

一

次の文章は、高校の同窓会で再会した同級生どうしが、お互いの近況報告をしている場面です。これを読んで、あとの問に答えなさい。

(50点)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

問一 傍線(a)～(d)の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。(各2点)

問二 傍線(1)とありますが、「声が尖っていた」のはなぜだと「私」は考えていますか。五十字以内で説明しなさい。(8点)

問三 傍線(2)とありますが、なぜ「曖昧な返事」になったのですか。最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。(4点)

ア ひかりが自分に対してどのような答えを期待しているのか、はかりかねたから。

イ 単に興味で描いている絵に対して、あまりに踏み込んだ質問をされて驚いたから。

ウ 絵に関して具体的に答えられるような努力をしておらず、返答に困ったから。

エ 何を答えてよいか考えがまとまらず、どうにか考える時間を稼ぎたかったから。

問四 傍線(3)とありますが、それでは「この何年か」の「私の一番の関心事」は何でしたか。文中から七字で抜き出して書きなさい。(6点)

問五 傍線(4)とありますが、「私」はなぜこのように言ったのですか。五十字以内で説明しなさい。(6点)

問六 傍線(5)とありますが、なぜですか。五十字以内で説明しなさい。(10点)

問七 問題文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、記号を書きなさい。(8点)

ア 御木元玲は高校生の頃から周りに流されることなく、孤独に耐えても自らの信念を貫くタイプであり、同窓会で再会した折も、変わることなく個性を放っていた。

イ 千夏や玲の言う「トレーニング」とは、夢を実現するための、普段とは異なる特別な練習をするものであり、「私」にとっては全く縁のない、憧れの対象である。

ウ 皆の発言に的確な受け答えをする千夏は、高校生の頃から常にクラスのとめ役で、その場の雰囲気や敏感に察知するために同窓会でも聞き役に徹している。

エ 大きな目標を持つこともなく、ただ何となく生きてきた「私」は、同級生たちがひたむきに夢に向かっていている様子を目の当たりにし、動揺を隠しきれないでいる。

文章の内容はわかっているも、
 解答にまとめるのが難しかった。

添削者より
 記述問題では設問で何について問
 われているのかを正しく捉えるこ
 とが大切です。その上でポイントと
 なる部分を問題文から選び取り、字
 数に収まるようにまとめます。練習
 を重ねてコツをつかみましょう。

添削者名
 神田

4
 6/6
 問四

好きな人のこと



「私」の心情が描写されている箇所に着目し、「私の一番の関心事」を正しく
 抜き出すことができましたね。

5
 3/6
 問五

自分の絵は趣味なもので、
 気がななしいから、
 本気がなく、
 千夏は勉強が強い
 とは、
 比較的に、
 なかなか

現在の自分の本当の状況を（知られたくない）という「私」
 の気持ちをとらえましょう。

理由を問われているので、「から」「ので」
 などで結びましょう。

6
 7/10
 問六

自分が努力を
 懸念して、
 命に代わら
 ないの
 ために、
 歌の作り
 方を、
 丁寧に
 作らな
 かった

「私」は千夏と「会話」をするうちに、うらやましいという気持ちを抱くようになったのです。（人に話せるような）努力をしていない点まで明確に示せるとよいですね。

「自分の足元しか見えない私」に対して、千夏は（周囲を気にせず）自分の才能を磨いているという対比を明確にしましょう。

- □ 要素ごとの出来をチェック
- ① 「人に話れる努力を何もしていない」という（今の「私」の状況）をおさえられたか。 ↓△
- ② 「千夏は周囲を気にせず自分の歌を追い求めている」という（千夏と私との違い）をおさえられたか。 ↓△
- ③ （千夏と私との対比関係）を明確におさえられたか。 ↓○

7
 8/8
 問七

工



問題文全体の人物描写、心情描写をしっかりと読み取ることが
 できましたね。

-2

-1

-1

-2